

『光源氏物語抄』（異本紫明抄） 5帖



『光源氏物語抄』（いわゆる『異本紫明抄』）は、鎌倉時代の大部な『源氏物語』古注釈集成で、『紫明抄』に大きく影響を与えており、さらに『河海抄』にも大幅に取り込まれることが判明している。『紫明抄』『河海抄』という二大注釈書にこれほど大きな影響を与えている注釈書というのは他にない。また、多くの人物の名前が見え、鎌倉期の関東における『源氏物語』研究の隆盛を示す史料としての価値も大きい。『光源氏物語抄』は、引用文献を丹念に載せることでも知られており、当時の歌集、注釈書、『枕草子』、散佚物語などの本文を調べる上でも貴重な注釈書である。

完本はノートルダム清心女子大学本のみと大変貴重な本である。宮内庁書陵部蔵本（整理番号502・37。以下書陵部本と略称）も完本であったが、関東大震災で第一冊を焼失。靈元天皇宸筆の龍紋題簽、寸法、装訂などの一致から、ノートルダム清心女子大学本は、書陵部本と近い時期に、禁裏周辺で作成された本と推測される。

両架番号E-15。〔近世初期〕写 5帖。縦27.6cm

×横20.3cm。袋綴。栴紙。全5冊。外題・中央題簽「紫明抄青（黄・赤・白・黒）」。題簽は縦17.5cm×横3.4cm、丹地、龍紋。第1冊のみ、題簽右に直書で「紫雲寺素寂法師著 光源氏物語抄」とある。内題「光源氏物語抄一（二～五）」。

薄藍水玉文様の紙表紙。遊紙、各巻首尾1枚。墨付丁数は、第1帖・96丁、第2帖・88丁、第3帖・108丁、第4帖・98丁、第5帖・66丁。1面11行。1行字数21字前後。各帖1丁表に「黒川真頼藏書」「黒川真道藏書」「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。第1・2・5帖裏表紙見返し、第3帖墨付最終丁表、第4帖末尾遊紙表に「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。

影印として『紫明抄1～5』（ノートルダム清心女子大学古典叢書 福武書店 1976.5～77.1）と、今年から刊行が始まった正宗敦夫収集善本叢書第一巻『光源氏物語抄』（武蔵野書院 2010.2）が、翻刻として『光源氏物語抄』（源氏物語古註釈叢刊第一巻 武蔵野書院 2009.9）がある。

（文学部日本語日本文学科 准教授 新美哲彦）